

日本国 吉村和就の挨拶文

花蓮第二信用合作社の創立100周年,誠におめでとう御座います。
本日、この記念すべき日に私どもをお招きいただき、皆様にご挨拶できること
誠に喜びであります。

私は、花蓮二信の前身となった「花蓮港信用組合」を設立した吉村佐平の孫の
吉村和就、隣は妻・恵子であります。

祖父・吉村佐平は花蓮の経済発展を願い1916年「花蓮港信用組合」を設立して
以来、皆様のたゆまぬ努力により、100年という長き日を経て台湾の地方銀行
を代表する企業になったこと、心からお祝い申し上げます。

思い起こせば、今から25年前、私の母・吉村美恵に突然、花蓮二信から招待状
が参りました。当時の総経理の陳原紅さんからでした。「花蓮二信の75周年
記念式典に参列してほしい」母は涙を流しながら手紙を何回も読み返しており
ました。

母・美恵はこの花蓮で生まれ、花蓮高等女学校を卒業し27年間、花蓮で過
しました。花蓮は母にとり心の故郷でした。手紙を読むたびに花蓮の素晴らしさ
を思い出していたのだと思います。

しかし、母は足が悪く、代わりに私たち夫婦が75周年記念式典に参列させて
頂きました。陳総経理は日本語も堪能で、日本の多くの財界人にも人脈があり、
素晴らしい人でした。我々も記念行事の後、陳総経理に吉野村、鳳林などを案
内いただきました。

創立75周年記念式典へのご招待、そして今回創立100周年記念式典への招待、
花蓮二信の皆様の心温まる真心に触れ、心より感謝申し上げます。それ以来
私たちも花蓮が大好きになり、私の兄弟や家族を連れ、何度も花蓮を訪れてお
ります。

話は変わりますが、映画の話です。

昨年は1931年、台湾代表として全国高校野球選手権に出場し、準優勝を果たし
た嘉義農林学校（通称：嘉農＝かのう）野球部の実話を描いた台湾映画「嘉農
1931、海の向こうの甲子園」が日本で大ヒットしました。

今、日本では「湾生回家」という映画が 11 月 12 日から日本で上映され、ヒットの兆しがでております。台湾でも 35 万人が涙を流したと言われております。この映画の舞台は花蓮県です。このような映画を通じて台湾と日本との心温かい交流が続くことを願っております。

最後になりましたが、私の妻・恵子の着ている着物は、吉村佐平の妻・セキが 100 年以上も前に愛用していたものです。その着物を仕立て直し、今日着て参りました。(中身の妻は 100 年物ではありません、笑) 祖母・セキは、吉村商事、吉村鉄工、花蓮港信用組合などの経理責任者をしておりました、祖母もこの、おめでたい席に参列でき、きっと喜んでいることと思います。

ここに皆様の真心に対し、ささやかですが記念品を贈らせて頂きます。このクリスタルの様に、澄み切った真心を持ち続け、次の 100 年に向け花蓮二信の更なる飛躍と皆様のご活躍をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

花蓮二信の創立 100 周年、誠におめでとうございます。

深謝

日本国
吉村和就

記念品

- ・ クルスタル（高品質光学硝子）トロフィーにレーザー加工彫刻
- ・ 高さ：285センチ、重さ：約2080グラム

